

# SUSTAINABILITY REPORT 2023

三本珈琲サステナビリティレポート 2023年度版



**MITSUMOTO COFFEE**

## コーヒーを、どこまでも。



MITSUMOTO  
COFFEE

### 関わるすべてのひとに、ちょっとした幸せを。

三本珈琲は1957年に横浜で創業し、日本のコーヒー文化とともに成長を遂げてきたコーヒーロースターです。昨今の国内経済は、コロナ禍が収束したことに伴うリバウンド需要やインバウンド消費の拡大、設備投資の増加等により社会経済活動は正常化に向かい、雇用や所得環境の改善に伴う個人消費の持ち直しによる景気の回復基調は維持されましたが、一方で、原材料価格やエネルギー価格が高止まりの状況にあることに加えて、足元の円安がさらなるコスト上昇に繋がる可能性もある不安定な状況です。食品業界においては、これらのコスト上昇に伴い商品の価格改定を実施してきましたが、消費者の節約志向は強まる傾向にあり、企業業績の下押し要因となることが懸念されました。

コーヒーの原料となる生豆市況は、アラビカ種から安価なロブスタ種への切り替えによる世界的な需要急拡大により生じたロブスタ種の需給逼迫感が強まり、異例の高値圏を推移したことによりコーヒー相場全体の下支えとなり、急激なロブスタ種の高騰等による市場の混乱などもコーヒー相場の上昇要因となりました。

そのような状況の中、2021年から活動を開始したサステナビリティ推進室活動状況としては、創設以来継続的に取り組んできたことが花咲き、実り始めた年といえます。特に地域に根差した啓発活動においてはその浸透を実感するところであり、一つの活動実績が新たなパートナーシップを産みだす連鎖を起こし、その広がりを確かなものとしています。

サステナビリティ推進スローガンに「持続可能な世界を、一粒のコーヒーから。」を掲げ、コーヒーの持つ可能性を広げ、コーヒーの価値を高め、コーヒーを通して出会う一人ひとりにちょっとした幸せを提供する存在でありたいという経営理念とともに活動を推進することで、企業として社会・地球の持続可能性の能動的追及を可能にできると考えています。

今後も強い意志を持ってサステナビリティ推進を継続し、多様なステークホルダーの皆様のご期待に応えるべく挑戦を続ける所存ですので、皆様の変わらぬご支援賜りますことを、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

三本珈琲株式会社  
代表取締役 山本 聡



ピックアップ 3・4

編集方針 5

サステナビリティ推進体制 6

三本珈琲のステークホルダー 6

三本珈琲のマテリアリティ・マテリアリティ分類 7・8

プロジェクト 9・10

活動実績 11～

マテリアリティ1 「環境への取り組み」 11～15

マテリアリティ2 「社会への貢献」 16・17

マテリアリティ3 「GRC」 18

あとがき 19

想い 20



PICK UP  
ピックアップ



公式サイトは▶  
こちらから！



農林水産省の公式サイトに弊社の取り組みが紹介されています！

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 食品産業

～持続可能な社会と食品産業発展のために私たちにできること～

### 始まった食品事業者の取組

コーヒーを、どこまでも。



MITSUMOTO  
COFFEE

#### 三本珈琲株式会社

インタビューで取り上げたSDGs



三本珈琲株式会社 常務取締役 山本将人さん  
同 サステナビリティ推進室 室長 正木陽子さん

三本珈琲株式会社は1957年に横浜で創業、「コーヒーを、どこまでも。」をスローガンに、ロースターとして企画、製造、物流の体制を確立し、現在ではコーヒー豆の焙煎・加工・販売、コーヒー関連商品の取り扱いの他、カフェを始めとした店舗企画・運営等、コーヒーに関わるさまざまな事業を行っています。

この度企業のSDGsの取り組みについて三本珈琲株式会社の常務取締役 山本将人さん、製造部門 納括本部 サステナビリティ推進室 室長 正木陽子さんにお話を伺いましたので、その内容を紹介します。

取材日：2021年12月20日 三本珈琲株式会社鎌倉総合工場にて

世界中で愛されるコーヒーから「ちょっとした幸せを、世界中のひとに届ける」を目指しています

#### 社会・コーヒー業界での存在意義

横浜の小さな喫茶店にコーヒーを卸すところからスタートした当社は、地場に根付く企業を目指して運営を始め、現在では全国に支店を構える企業に成長しました。1989年には地元横浜で開催されたYES'89横浜博覧会に「MMCコーヒー地球体験館」を出展、その頃から社会との繋がりを大切に、社会に貢献できる取り組みを始めていこうと考え、会社としては、しっかりと経営をしながら、社会にとってどのような役割があるのかを考えてきました。

当社は、自社で使用するコーヒー生豆の大部分を生産国やコーヒーサプライヤーから直接輸入するなど、自分達で産地の状況を把握しながら、責任ある仕入れ体制を構築しています。また、お客様の「おいしい」のために、それぞれのご要望に寄り添う味づくりを強みとして製造を行っています。その結果、製品構成は小ロット多品種になりますが、コーヒーの魅力を様々なお客様へお届けすることができます。

さらに、当社がSDGs活動を推進することによって、コーヒー業界から持続可能な世界づくりを広げることにも貢献できると考えています。

#### SDGsは組織と世界が共に生きるための必達の目標

当社にとってSDGsとは「組織と世界が共に生きるための必達の目標」と考えています。明日からではなく、今すぐ何かを始めるといった姿勢を大切に取り組み続けています。

また、パートナーシップを活かすことも大切であると考えており、そのためには「三本珈琲がこんな面白い取り組みをしている」ということを多くの方に効果的に発信していくことが重要と考えています。

実際、様々な方面から取り組みへの協力のお声がけをいただく機会も増えており、活動を共に作り上げ双方で発信することでどんだん世の中に取り組みの輪が広がっていくように感じています。

一つの組織で取り組むよりも多くの参加者がいたほうがその輪は大きくなるので、そのような相乗効果が未来にまで伸びて繋がる、世界と共に生きる役に立つ企業として、今後も「ちょっとした幸せを、世界中のひとに届ける」取り組みを続けていきます。

出典：[https://www.maff.go.jp/j/shokusan/sdgs/mitsumotocoffee.html#com\\_top](https://www.maff.go.jp/j/shokusan/sdgs/mitsumotocoffee.html#com_top)



PICK UP  
ピックアップ



コーヒー  
メーカー  
初!

農林水産省が運営するニッポンフードシフトの  
公式noteに当社の取り組みが紹介されました!

公式サイトはこちらから!



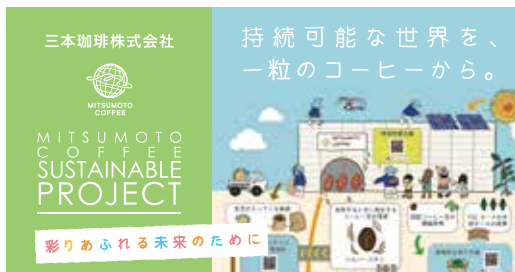
Vol. 1

一粒のコーヒーからはじまる  
持続可能な世界の輪 [Vol.1]  
ニッポンフードシフト公式note



Vol. 2

一粒のコーヒーからはじまる  
持続可能な世界の輪 [Vol.2]  
ニッポンフードシフト公式note



Vol. 3

一粒のコーヒーからはじまる  
持続可能な世界の輪 [Vol.3]  
ニッポンフードシフト公式note

## 秋田県社会福祉協議会から感謝状をいただきました!

2023年7月に秋田地区で発生した大雨対策のため設置された災害ボランティアセンターに、計350kgのレギュラーコーヒーをお届けし、秋田県社会福祉協議会から感謝状をいただきました。



三本珈琲株式会社の2024年サステナビリティレポートは、  
以下の方針に基づき作成します。

報告対象範囲	三本珈琲株式会社製造部門
報告対象期間	2023年4月1日～2024年3月31日(2023年度)
報告目的	・取り組みの現状把握 ・取り組みの継続的改善 ・利害関係者への活動状況報告
報告頻度	1回/年(毎年7月)
参考とした ガイドライン	ISO26000、GRIスタンダード

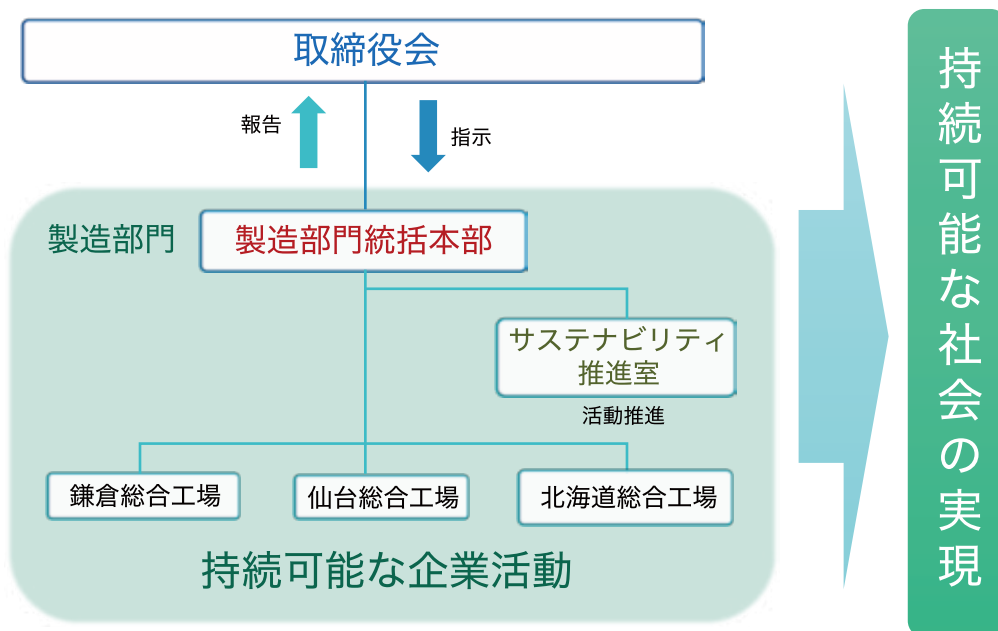


三本珈琲株式会社は、鎌倉総合工場、仙台総合工場、北海道総合工場の3つの生産工場を有しており、製造部門を形成しています。

サステナビリティ推進室は製造部門を統括する製造部門統括本部内に設置され、製造部門統括本部長が最高責任者となって、三本珈琲のサステナビリティ活動を推進しています。

推進状況はサステナビリティ推進室から製造部門統括本部長を通して本社取締役会に報告され、審議されます。

取締役会の審議結果は製造部門統括本部長からサステナビリティ推進室にフィードバックされる仕組みを取っており、当社のサステナビリティ活動は常に経営層の意思・方針となることを確実にしています。



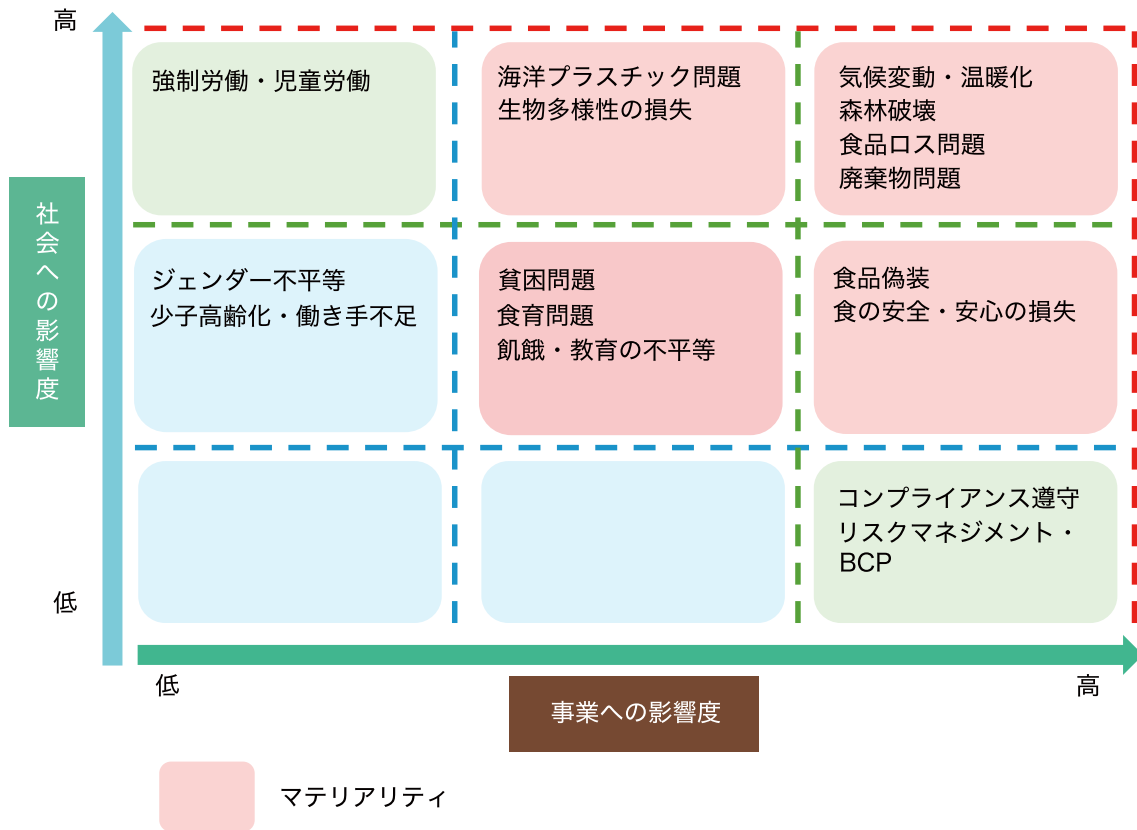
STAKEHOLDERS OF MITSUMOTO COFFEE

三本珈琲のステークホルダー

三本珈琲株式会社は、ステークホルダーを以下の通り特定し、効果的なコミュニケーションに取り組んでいます。

ステークホルダー	コミュニケーション(頻度)
お客様	営業活動(随時)
取引先/業務委託先	購買活動/取引(随時)、定期監査(1回/年)
消費者	販促物(随時)
地域住民	説明会(随時)、災害時の支援(随時)
行政機関	各種申請・更新(随時)、講習会・説明会への参加(随時)
従業員	個人面談(2回/年)、コンプライアンス窓口の設置(随時) 目安箱の設置(随時)

三本珈琲はBtoB領域を強みに成長してきましたが、近年BtoC領域にも力を注いでいます。三本珈琲では「社会への影響度」及び「事業への影響度」を考慮し下記の通り重要課題（以下、マテリアリティ）と位置づけ取り組んでいます。



※三本珈琲のマテリアリティは、社会への影響度、事業への影響度のどちらも「高」と評価されるか、どちらかが「高」でどちらかが「中」、及びどちらも「中」と評価されたものとしています。



## MATERIALITY CLASSIFICATION

### マテリアリティ分類

三本珈琲のマテリアリティは「環境への取り組み」、「社会への貢献」および「ガバナンス・リスク・コンプライアンス(GRC)」に分類して管理しています。それぞれの具体的な取り組み、目標及び対応する持続可能な開発目標(以下、SDGs)を以下の通り決定しています。

### SDGsとは…

持続可能な開発目標(SDGs)とは、すべての人々にとってよりよい、より持続可能な未来を築くために2015年の国連サミットで採択された世界中のみんなで取り組む17の目標のことで、SDGsの目標は相互に関連しており、誰一人置き去りにしないために、2030年までに各目標・ターゲットを達成することが重要です。三本珈琲は、これらへの貢献を宣言し、組織の重点課題と紐づけて取り組んでいます。

## Sustainable Development Goals



### マテリアリティのカテゴリ分類【2024年3月現在】

	マテリアリティ	具体的な取り組み	目標	SDGs
環境への取り組み	気候変動・温暖化	CO <sub>2</sub> 削減 ①太陽光パネルの設置により再生可能エネルギーを使用 ②照明LED化による電力消費量削減	2030年までに製造活動により排出されるCO <sub>2</sub> をCO <sub>2</sub> 排出原単位で2018年度比30%削減	
	森林破壊	FSC® 認証マーク製品の積極利用	2025年までに100%の段ボールをFSC認証マーク製品に切替える	
	海洋プラスチック汚染問題	プラスチック製品使用量の削減 包材材質の紙転換	2030年までに50%の一杯抽出型ドリップコーヒー包材材質を紙素材に切り替える。	
	生物多様性の損失	レインフォレスト・アライアンス認証農園産生豆の積極利用	—	
	食品ロス問題	①全員参加型食品ロス削減推進モデルの運用 ②フードバンク等への寄付	2030年までに2021年度からの累計で300トンの食品ロス削減	
	廃棄物問題	未利用資源の新規用途開発・チャフ(シルバースキン) ①牧場等での床敷等による活用 ②食品への応用の研究 ③バイオマス燃料としての用途探求・麻袋農家・動物園での再利用	2030年までに製造工場から排出される廃棄物をゼロにする。	
社会への貢献	貧困問題	フードバンク等への寄付	—	
	飢餓・教育の不平等	国連WFPレッドカップキャンペーン参加	2030年までに国連WFPへの寄付額を2022年度比で200%にする	
	食育問題	コーヒーセミナー、子供SDGsセミナーの開催	子供SDGsセミナーの継続開催	
GRC	食品偽装/食の安全・安心の損失	FSSC22000の効果的な運用	継続的改善システムを維持更新し続ける	



# 一杯のコーヒーで、子ども 学校給食で

ーサンシャイン



1 コーヒーの産地国の多くが  
飢餓と貧困で困っています。

コーヒーの産地国の多くが慢性的飢餓に苦しんでいます。



2 学校給食を支援することで  
救える命があります。  
叶えられる夢があります。

- 栄養状態や健康が改善されます。
- 出席率が上がり、子ども達の知識レベルが上がります。
- 新しい技術が生まれ産業が発展します。
- 国が豊かになります。



子どもたちに  
光ある未来が開かれます。



レッドカップキャンペーンは  
国連WFPを通じて  
途上国の学校給食を支援します。



学校給食支援実施国: 61か国  
(2023年)

学校給食支援を受けている  
子ども達: 2,140万人以上  
(2023年)

# たちの未来に光を照らそう！

# 未来を創る！

## コーヒープロジェクト

公式サイトはこちらから！



SUNSHINE  
COFFEE PROJECT



国連WFPの  
レッドカップキャンペーン



## 応援ありがとう！

### SUNSHINE COFFEE PROJECT 2023 実績報告

2023年度寄付金額

3,902,364円

学校給食

130,078食



三本珈琲  
サンシャインブレンド  
業務用コーヒー

三本珈琲  
サンシャインブレンド  
ドリップトップ  
コーヒー



2022年から始まった三本珈琲の「SUNSHINE COFFEE PROJECT」は、賛同企業全員で国連WFP協会が実施する「レッドカップキャンペーン」を応援する取組みで、対象商品の売上の一部は途上国の学校給食支援に寄付されています。

2023年度はおかげさまで3,902,364円を寄付し、この寄付で学校給食約13万80食が途上国に届けられました。これからも「SUNSHINE COFFEE PROJECT」は賛同企業の皆様とともに、学校給食で子どもたちの未来を照らし、コーヒーで世界を彩ることを願って活動を続けて参ります。



4

三本珈琲は2022年5月より「SUNSHINE COFFEE PROJECT」を発足し、本プロジェクトへの参加を通してより多くの企業がレッドカップキャンペーンを支援できる取り組みを実施しています。

「SUNSHINE COFFEE PROJECT」参加企業は三本珈琲のレッドカップキャンペーン製品を購入し、その売上の一部はプロジェクトを通して国連WFPに寄付されます。

SUNSHINE COFFEE PROJECT

賛同企業



売上金の一部を  
寄付

学校給食  
支援



途上国の  
子どもたち

「SUNSHINE COFFEE PROJECT」は、  
学校給食支援を通して、  
地球を照らす太陽の光のように、  
世界中のこどもの笑顔と  
未来をはぐくむ取り組みです。



## マテリアリティ1 「環境への取り組み」

課題：気候変動・温暖化

【目標】2030年までに製造活動により排出されるCO<sub>2</sub>をCO<sub>2</sub>排出原単位で2018年度比30%削減。



### ① 再生可能エネルギーを使用した生産活動

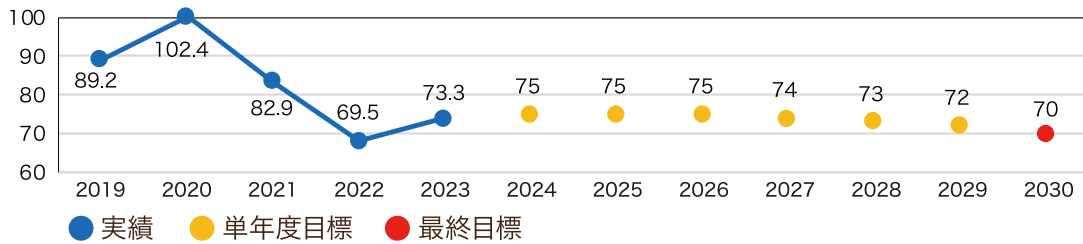
工場に太陽光パネルを設置し、製造活動に使用する電力の一部を再生可能エネルギーで賄い、CO<sub>2</sub>を削減しています。



2023年度 CO<sub>2</sub>排出原単位削減実績(%)

-27%

CO<sub>2</sub>排出原単位削減目標(2018年度比)(%)



目標の修正：なし

▼2024年度の課題事項

製造量減により各種使用効率が下がりCO<sub>2</sub>排出原単位としては上昇したが、単年度目標は達成した。太陽光パネルは継続して鎌倉・仙台の2工場で順調に稼働していることから引き続きモニタリングしていく。

### ② 照明LED化による電力消費量削減

【2023年度取り組み実績】

●3工場すべて場内のすべての照明をLEDに切り替え済み。



目標の修正：目標値を設けずに管理

▼2024年度の課題事項

全ての照明のLED化が完了したが、LEDによる効果の測定は困難の為個別目標値は設けず、CO<sub>2</sub>排出原単位の推移をモニタリングすることとする。

## マテリアリティ1 「環境への取り組み」

課題：森林破壊

【目標】2025年までに100%の段ボールをFSC認証マーク製品に切り替える。



### ● FSC マーク付き製品の積極利用

【2023年度取り組み実績：FSCマーク付き段ボールへの切り替え率】

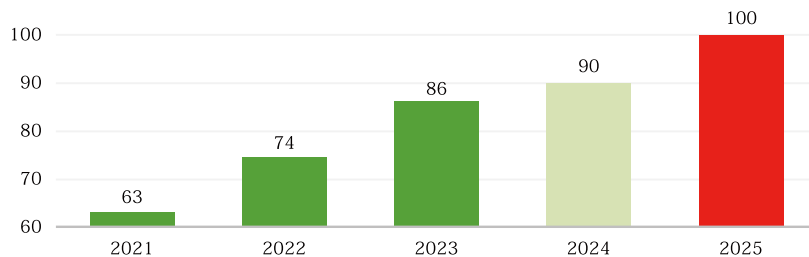


製造工場名	FSCマーク付き 段ボール使用率	2023年度実績
鎌倉総合工場	80%	<b>86%</b> (3工場合計実績)
仙台総合工場	97%	
北海道総合工場	66%	

#### 【FSC 森林認証とは】

FSCが定めた規格をもとに、適切に管理されていると認められた森林から生産された木材や、その他のリスクの低い木材や再生資源を使用した製品にFSCラベルを付け、認証製品として販売できる制度です。FSCラベルを目印に認証製品を選んで購入することで、認証された森林資源への需要が高まり、適切に管理された森林の拡大につながります。(FSC®N003172)

FSCマーク付き段ボール切り替え目標(%)



目標の修正：なし

#### ▼2024年度の課題事項

2023年度は順調に主力製品等の切り替えが進み3工場とも切り替え率は上昇した。100%の達成には海外向け製品において一部切り替えが困難なものがあることから今後の動向を見てその製品を対象外とし達成目標年度を早めることや、追加の効果的な取り組みの導入を検討する。

課題：海洋プラスチック問題

【目標】2030年までに50%の1杯抽出型ドリップコーヒー包材材質を紙素材に切替える。



### ● プラスチック製品使用量の削減：包材材質の紙転換



【2023年度実績：1杯抽出型ドリップコーヒー包材の紙切り替え率】

プラスチック削減量 (Kg)※	切り替え率
5,515kg	49%

※一杯抽出型ドリップトップコーヒー1個当たり0.96gのプラスチックを削減するとして算出

目標の修正：なし

#### ▼2024年度の課題事項

2023年度も顧客ニーズは高く順調に切り替え率を伸ばしている。早期の目標達成が見込まれている為新たな目標値を2024年度の推移を見ながら策定していく。

## マテリアリティ1 「環境への取り組み」

課題：生物多様性の損失



### ● 環境保全型認証農園産生豆の積極利用

#### 取り扱い認証各種



レインフォレスト・アライアンス認証一人と自然により良い未来。[www.rainforest-alliance.org/lang/ja](http://www.rainforest-alliance.org/lang/ja)



有機JAS



国際フェアトレード認証

目標の修正：なし

▼2024年度の課題事項

効果の測定が難しいことから目標値を定めず、引き続き積極利用していく。





## マテリアリティ1 「環境への取り組み」

課題：食品ロス削減

【目標】2030年までに2021年度からの累計で300トンの食品ロス削減。



2023年度 食品ロス削減数量

2021年度からの累積

約20t 約54t



### ① 全員参加型食品ロス削減推進モデルの継続的活動

2021年から販売を開始した、コーヒーの製造時に発生する食品ロスを活用して作られる「三本珈琲オリジナルブレンド」。その売上金の一部は社会貢献活動に使用されます。2023年度も、これまで実施してきたフードバンク等への寄付の他、啓発活動も関係各所との連携を活かして行われました。

量販店で賞味期限が迫った食品を買い取り  
フードバンクに寄付



特定  
非営利団体へ  
寄付



### ② 各種メディアでの発信

農林水産省が運営するニッポンフードシフトの公式noteに当社の取り組みが紹介され、全3回の連載記事になりました。(巻頭PICK UP記事にも掲載)また、ニュースウィーク日本版SDGsパートナー記事として当社の食品ロス削減への取り組みと国連WFP協会が行うレッドカップキャンペーン支援プロジェクト「SUNSHINE COFFEE PROJECT」に関する記事が掲載されました。



・一粒のコーヒーからはじまる持続可能な世界の輪 [Vol.1]  
 ・一粒のコーヒーからはじまる持続可能な世界の輪 [Vol.2]  
 ・一粒のコーヒーからはじまる持続可能な世界の輪 [Vol.3]  
 ニッポンフードシフト公式note

・食品ロス：ニュースウィーク日本版  
 オフィシャルサイト (newsweekjapan.jp)  
 ・学校給食で未来を創る！ | ニュースウィーク日本版  
 オフィシャルサイト (newsweekjapan.jp)

### 受賞歴



2022年  
公益財団法人食品等流通合理化促進機構  
「食品産業もったいない大賞」  
審査委員会審査委員長賞

2021年  
消費者庁主催  
「食品ロス削減推進大賞」  
審査委員会委員長賞



目標の修正：なし

▼2024年度の課題事項

引き続き本モデルの推進、未利用資源の有効活用に取り組む。  
社会貢献費用の有効活用も推進していく。

## マテリアリティ1 「環境への取り組み」

### 課題：廃棄物問題

【目標】2030年までに製造工場から排出される廃棄物をゼロにする。



### ● 植物性廃棄物の有効利用

#### ① シルバースキン(チャフ)の活用

コーヒーを焙煎する時に発生するコーヒー豆の薄皮、シルバースキン(チャフ)は月間で約2トン発生しており多くは廃棄されていましたが、動物の床じきやバイオマス燃料の他、食品として活用することも含めて検討をすすめていきます。



シルバースキン(チャフ)

エネルギーとしての利用

パートナーでの有効利用

新規食品素材としての利用

2023年度 再利用率

58.6%



写真提供：横浜市立金沢自然動物園



展示会ではシルバースキンを練りこんだ焼き菓子を提供



シルバースキン入りバケットのアレンジメニュー

#### ② 麻袋の再利用

コーヒー生豆が入っている麻袋は、農家や動物園で様々な用途で活用されています。



麻袋を再利用したバックにペイントするイベントを開催

目標の修正：なし

▼2024年度の課題事項

2023年度はパートナー企業との連携推進し未利用資源を活用していく。  
引き続き2030年までに工場からの廃棄物ゼロを目指す。

## マテリアリティ2 「社会への貢献」

課題：食育問題

【目標】SDGsセミナーの継続開催。



未来を担う子供たちに、  
光り輝く未来創りをバトンタッチ！

【2023年度実績】



セミナー内容	対応件数	総件数
SDGsセミナー、イベント	20件	28件
対談、取材、交流会等	3件	
子ども食堂支援	5件	



目標の修正：なし

▼2024年度の課題事項

子ども向け体験型セミナーを軸に各種イベントの開催要望は増えている。  
継続と連携を意識して引き続き注力して継続する。



## マテリアリティ2 「社会への貢献」

課題：貧困問題

【目標】フードバンク等への寄付活動に引き続き取り組む。



誰一人取り残さない笑顔溢れる社会を目指して、  
三本珈琲はフードバンクを通じて、  
積極的に社会貢献に努めています。

【フードバンク等への寄付実績】

2020年度からの累計寄付実績



寄付数量

10,172kg

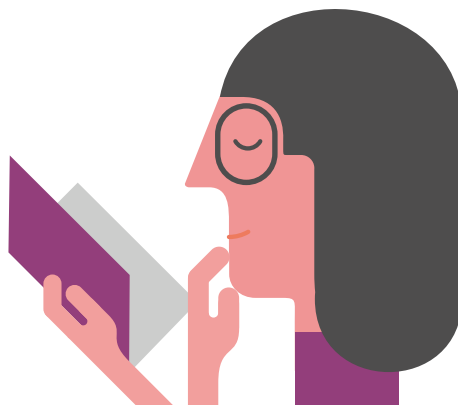
秋田県内6カ所の  
社会福祉協議会へ寄付

※2021年4月～2024年3月

目標の修正：なし

▼2024年度の課題事項

食べ物を食べ物として必要な先に届けることを最優先に考え、  
引き続き寄付を行う。  
災害など突発的な対応が必要な場合も支店網を活かして迅速に対応する。



## マテリアリティ3 「GRC」

課題：食品偽装/食の安全・安心の損失

【目標】継続的改善システムを維持更新し続ける。



### ● FSSC22000の効果的な運用

鎌倉総合工場、仙台総合工場では食品安全のグローバル認証であるFSSC22000を取得し、システムの継続的改善に取り組んでいます。



鎌倉総合工場



仙台総合工場

目標の修正：なし

▼2024年度の課題事項

認証維持を通して、対外的な信頼性確保・向上に加え、組織のシステムの継続的改善が確実となるよう運用していく。







# SDGs

Sustainable Development Goals

2023年度は当社にサステナビリティ推進室が設置されて3年目、活動も継続とともに新たな工夫が必要な段階であったと感じています。

そのような中で活動のカギとなっていたのはやはりパートナーシップでした。

当社の推進するSDGs関連活動に関し、ご興味をいただき多種多様なご依頼をいただけるようになりパートナーシップも広がっていくわけですが、この広がりを後押ししてくれたのは継続してきた活動が外部だけでなく内部にも影響を与え始めたことの現れだととらえています。2023年度はセミナーやイベントの他に意見交換会が行われることが増えてきました。特に影響が大きかったのは2023年5月の農林水産省の仙台総合工場訪問です。ニッポンフードシフトに関する意見交換会として農林水産省から5名、当社から6名が参加し協議を行いました。このような経験は社内啓発に最も効果が高いと考えており、内外の様々な課題の包括的な解消に貢献可能な取組みであると考えており、形を変えて継続して実施したい取組の一つです。

小さな単位で少しずつではありますが、今後も業界関わらず相互に刺激し向上し合えるようなパートナーとの関りを構築していきます。各地で活動を継続していると、地域それぞれの文化や特徴に触れることがあります。困りごとや地域それぞれだということがわかります。課題解消にとって大切なことは地域連携で循環を作ることであると実感として学びました。文化や特徴や今ある資源を活かし、それぞれができることを集めて循環を作中で、当社にできること・求められることも1つではなく多様であるということです。

当社の強みである柔軟性やスピード感を存分に発揮した社会貢献を継続すると共に、外から降り注ぐ太陽の光で社内の意識という新芽を伸ばしながらパートナーシップを促進し、それらがもたらす子どもたちの未来が明るく夢あふれるものであり続けるように願い、今後も活動して参ります。

三本珈琲株式会社  
サステナビリティ推進室  
正木陽子



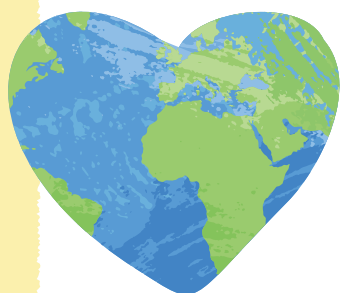
## 彩りあふれる世界のために

私たちの普段の生活のなかに、  
自分以外の誰かのために  
つながることは沢山あります。

私たちの事業活動にも、  
多くの可能性が潜んでいて  
コーヒー豆を生産する海外の農園から、  
世界中の食卓で湯気をたてるカップ一杯のコーヒーまで、  
それぞれの「手」に込められた想いをつないでいくことが  
コーヒーに関わる企業としての  
私たちの重要な役割の一つだと考えています。

「誰ひとり取り残さない」社会のために、  
小さくても何かできることをしたい。  
そのために、これまでのあたりまえを、  
信念を持って、変えていく。  
未来のために、続けていく。

「MITSUMOTO COFFEE SUSTAINABLE PROJECT」は、  
持続可能な世界のために、  
一粒のコーヒーでつながる想いを未来につなぐ  
私たちの小さくても確かな一歩です。



**MITSUMOTO COFFEE**



**MITSUMOTO  
COFFEE  
SUSTAINABLE  
PROJECT**

持続可能な世界を、  
一粒のコーヒーから。







持続可能な世界を、一粒のコーヒーから。



**MITSUMOTO COFFEE**